

『種の起源(下)』 主な用語

〈生物の分類階級(大きいほうから見て)〉

界<sup>かい</sup>—門<sup>もん</sup>—綱<sup>こう</sup>—目<sup>もく</sup>—科<sup>か</sup>—属<sup>ぞく</sup>—種<sup>しゆ</sup>—亜種<sup>あしゆ</sup>—変種<sup>へんしゆ</sup>—品種<sup>ひんしゆ</sup>—亜品種<sup>あひんしゆ</sup>

\*ヒトの分類学的位置づけは

動物界、脊索動物門、哺乳綱、霊長目、ヒト科、ヒト属、ヒト(種)となる。

DIC  
2397p

Y100  
M100



種の起源(下)

しおり

『種の起源(下)』 主な用語

- 生存闘争 生物が生存可能な数以上で増えるために起こる存続をめぐる闘い。
- 自然淘汰 個体における有利な変異を保存し不利な変異を排除する、自然による選抜の過程。
- 創造説 すべての生物は神が個別に創造したものだという説。
- 交雑と雑種 遺伝的なタイプの異なる個体間での受精や受粉、すなわち交配を交雑という。またそれによつてできる個体が雑種。
- 雑種の不稔性 交雑によつて雑種ができない場合と、雑種はできるがその雑種に生殖能力がない場合がある。

DIC  
2397p

Y100  
M100



種の起源(下)

しおり